

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300504		
法人名	有限会社 プレア企画		
事業所名	グループハウスおよりの郷Ⅱ		
所在地	島原市鎌田町丁4133番地		
自己評価作成日	平成 31年 1月 15日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 2月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどか、のんびり、ゆったり の理念に基づき、入居者の方々の個性を尊重し、一人ひとりが自分らしく生活して頂けるように支援していくことをモットーとしております。共同生活の為ある程度の制限があるかもしれませんが出来る限り皆さんが、自由に、自分らしく、生き生きと暮らせ、人生の楽しい思い出になるよう心より応援したいと考えております。かつ家族の皆様とのコミュニケーションを大切にして、家族的で優しく暖かな介護を目指して頑張っております。それに加え、今年度は池端町内会の会長として地域活動に励んでおります。そのお陰で安中地区の方々や市、公民館との繋がりが増えました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、島原市鎌田町の閑静な住宅地にあり、東には有明海、西には平成新山を望むことができる。管理者は町内会長の役を担われていることもあり、地域の実態を把握するとともに地域での運動会や敬老会等の各種行事への協力や、市民清掃にも参加するなど地域との交流を深めている。また、今年度は島原市主催による地震による溶岩ドームの崩落を想定した「平成30年度島原市防災避難訓練」に事業所として参加し、職員の防災への意識を高めている。ホームでは近隣中学校や高校のボランティアと職場体験の受け入れについても積極的に、保育園児の訪問等入居者の笑顔に繋げている。副施設長は食事が入居者の楽しみの一つであることを踏まえ、本人に合わせた形態の食事を提供するとともに昔馴染みの音楽を流して楽しい雰囲気となるよう工夫するほか、動物を飼うことにより入居者への癒しに繋げるなど、身体的な健康の維持や回復に努められていることが窺えるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名
グループハウスおよびの郷Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営者、管理者とスタッフが業務に取り組む心構えを基本として理念を作り上げ、理念に沿ったサービスを提供するよう努めている	ホームでは日頃から職員の目に触れることができるよう、立ち上げ時からの理念をホーム内数か所に掲示している。施設長は機会がある毎に理念について話し、職員が意識付けできるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度は池端町内会長として町内会活動と8町内会合同の新安徳町会計を通じ地域の方と交流することで、当グループハウスおよびの郷Ⅱの理解強化と入居者様とのつながりを深めるよう努めている	管理者は今年度地域の町内会長を担っており、地域のソフトボール大会や地区運動会、敬老会などの世話役や市民清掃への協力も行っている。ホームでは近隣中学校・高校のボランティアや職場体験についても積極的に受け入れており、地域との交流を深めていることが窺える。また、保育園児による訪問は入居者の笑顔に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや実習生を積極的に受け入れ、介護技術の講習や認知症理解の啓蒙活動、町内会の方からの質問相談へつなげ、こちらからも情報を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表や家族の代表、駐在所の方にも参加して頂き、入居者様の近況や活動内容の報告だけでなく、参加者の方々からの質問や意見を頂き取り入れるものは取り入れ、こちらからも情報を発信している	運営推進会議には、地域住民や家族代表のほか駐在所の方の参加があっている。駐在所の方からは警察事案についての話を聞くことができ、入居者の見守りについても協力を依頼している。運営推進会議の議事録は2か月に一度発行する広報に載せており、ホーム内に掲示するほか家族への郵送も行っている。	運営推進会議の議題としてヒヤリハットについても挙げることににより「ホームの見える化」に繋がるとともに、ホームの改善策に対する考えについて別の視点から意見を聞く貴重な機会になるものと思われる。今後の取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村や県等の研修に参加したり、問い合わせをしたりしている。介護保険課だけでなく市民安全課や町内活動に伴い秘書人事課等と連携している。	管理者は日頃より行政担当者と顔馴染みの関係を築いており、協力関係にある。今年度は平成30年11月に地震による溶岩ドームの崩落を想定した「平成30年度島原市防災避難訓練」に参加し、市職員・地元消防団・自衛隊などとの連携に努められている。また、各種研修会の情報を入手し積極的に参加されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	およびグループの身体拘束廃止委員会の研修会で学び、学習の成果をサービス提供に繋いでいる	ホームでは今年度「身体拘束廃止に関する指針」を策定しており、3か所の系列ホームと合同で研修会を実施し、身体拘束を行わない支援の実践に努めている。赤外線センサーの使用はあるが、家族へ説明し同意も得ている。職員はスピーチロック(言葉による拘束)がないよう配慮しており、急な対応が必要となった場合には入居者へ待っていただく理由を伝えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	およびグループの身体拘束廃止委員会の研修会で学び、お互いにチェックしながら学びを実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	およりグループの研修会で学ぶと共に、現在日常生活自立支援事業を利用されている方が2名入居中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、機会があれば説明し、改定の時もできるだけ早くから情報を伝え理解を深めてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見希望があれば相談し出来るだけ添うようにし、苦情発生時には、話し合いの場を設けて解決に努めると共に、第三者機関の説明も行うようにしている	ホームでは運営推進会議に参加する家族もおり、職員に対し日頃の支援へ労いの言葉をいただくこともある。遠方の家族には、電話やメールを活用し入居者の日頃の様子を知らせるとともに、要望や意見を聴くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回、大全体会議、各事業所ではその都度意見交換をし、反映するようしている	施設長及び管理者は日頃から職員と話す機会を持ち、当ホーム全体で開催する研修会や会議においても職員の意見を汲み取り、必要に応じて運営に活かすよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、代表者・管理者が個別面談を行い、相談等を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の浅い職員には、研修等に参加すると共に、ベテラン職員による教育等も実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	既存のネットワークに、研修や行事等を利用し他機関の職員との交流を積極的に図り、強化・活用に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント情報を基にして、生活歴等を考慮した本人に見合った介護を行うことに心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時より家族等の意見をよく傾聴して、家族も含めた包括的な支援を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人とよく話し合い、ニーズの決定を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の簡単な業務(洗濯物たたみや新聞折り等)を共同作業という意識持って行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時等に、話し合いの場を設定して包括的な支援を行い、インターネット等を利用し、情報のやり取りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのかたが来所された時は、快く迎えてこれまでの関係が継続できるようにしている。その時写真撮影をし居室内に掲示することで再認識できるよう努めている。	ホームでは友人・知人の訪問や家族が訪問した際には寛げる場所を提供し、ゆっくりと会話を楽しんでいただけるよう配慮している。島原市で開催される初市に行く機会もあり、その帰りに近くのホテルで食事会を行うなど、入居者のこれまでの関係が途切れないよう各種の支援がなされている。家族の協力のもと外泊をする入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事等を通じて入居者間の交流を図り、全員が楽しく過ごせるように、働きかけている。問題が発生したときは、席の配置等を検討し対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、親身になって応じる旨伝え、退所後も交流している方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示等困難な方には、アセスメントや日々の様子等で感じた事や訴え等に共感する姿勢で本人の気持ちを汲むよう心掛けている	職員は入居者に寄り添い、日頃の様子や会話から思いを汲み取るよう努めている。会話が不自由な方については、本人の表情や家族からの情報のほか、受診時における医者との問診などから思いを汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インタビュー・アセスメント時に、家族や本人から得た情報を基にしてケアプランを作成し、それに基づいて、いままでの生活環境を少しでも保てるように支援し、その後も情報を収集し改善している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、連絡帳、申し送りや各個人に合わせたバイタルや排便の状況を記した表を作成し主治医との連携等を活用して継続的な支援が行えるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見や職員の意見等を、日々の打ち合わせやケース会議を通じて介護支援専門員が取りまとめて、ケアプランに反映している	ホームではサービス担当者会議などを通じて職員の意見や入居者及びその家族からの希望を取り入れ、本人の自立に向けた目標を設定し介護計画を立案している。状況により見直しが必要な場合にはその都度追加や見直しがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を毎日記録して、日々の状態の把握に努め見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新しいニーズが発生した場合は、モニタリング後ケース会議を開催して問題解決に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネット、運営推進会議や町内会活動、地域情報誌・研修会等を活用して、地域資源の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけの医療機関やご希望を伺い連携を取り、入所後の連携構築と維持に努めている(バイタルや排便の状況を記した表を作成し主治医に渡している)	ホームでは基本的に入居者のこれまでのかかりつけ医を受診できるよう支援している。受診の際には職員が日頃の記録物を持参し、医師への情報伝達がなされている。尚、受診内容によっては家族が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師と情報を共有して必要な情報、気づき等を担当医師へ表(バイタルや排泄、食事摂取量等)にし伝え誰が付き添っても十分な治療、処置を行えるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中も医療機関と連携を取り、退院後の支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常勤看護師や医師とも情報の共有を行っている。入居の際にご家族と書類にて同意を頂いているほか、書面での契約は行われていないが近隣の医療機関の医師とも協力が頂けるよう話がされている(ACPの検討)	入居の際には、入居者が重度化した場合における対応にかかる指針を家族へ伝えており、「看取りの指針」についても整備している。ホームでは近隣の医療機関の医師より看取りについての勉強会の提案があり、勉強会を開催する意向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急救命法の講習を積極的に受講し、AEDのリースを検討中		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	島原市市民安全課や消防等の防災機関と連携をとり、地区の避難訓練には毎年参加している。地震、津波等災害に応じた計画に雲仙普賢岳溶岩ドーム崩壊が加わり、市民安全課の力を借り策定した。本年度は、島原市防災避難訓練に参加した。	管理者は、平成30年11月に地震による溶岩ドームの崩落を想定した「平成30年度島原市防災避難訓練」に地元消防団や地域の方と一緒に参加し、地域の協力体制について確認を行っている。昼間・夜間想定避難訓練についても定期的実施されており、新人職員への消火器訓練についても行う予定としている。	現在、ホームでは備蓄の一覧表を整備されているが、より分かりやすく確認しやすいように、例えば「自然災害対策の防災計画」の中の「備蓄品等一覧表」を参考にして点検日を追加するなど、今後検討することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本情報やケアプランに基づき、個々人に見合った支援を行うように心がけ、プライバシーへの配慮も行い自尊心も保たれるよう心がけている	職員は接遇マナー研修会への参加のほか、身体拘束委員会開催時にも接遇などの基本的作法について学ぶ機会がある。不適切な言葉遣いが生じた場合には互いに注意し合ったり自分に置き換えたりするなど、注意を払うよう努めている。また、入居者によって話し方のトーンを工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の業務の中で、本人との会話の中から、本人が望む生活を聞き出し、少しでも実現するように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が出来る限り、本人のペースで生活できるように理念に基づき努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に職員が気を配り、その人その人の好みに合った身嗜みの支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく安全に食事が出来るように、個人ごとに適した状態をつくり、職員全員が心がけているが介護度が上がり一緒にすることは難しくなってきた	ホームでは、食事が入居者の楽しみとなるよう入居者に合わせた形態の食事を提供し、食事中は昔ながらの馴染みのある音楽をBGMとして流されている。年々介護度が上がり、食事中は職員のより一層の見守りが必要となっている現状にある。食後の服薬で錠剤が苦手な方については病院で粉砕してもらい服用できるよう配慮を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューを基に、バランスが取れた食事をその方が食べられる状態に手を加え提供し、水分もムセや好みに対応し工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自の出来る部分と出来ない部分を見極めて、本人に適した支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護の必要な入居者に対しては、自尊心に十分配慮した支援を行っている。トイレへの誘導等が必要な場合はチェック表をもとに適切なタイミングで気持ち良く排泄されるよう心がけている	ホームでは入居者に応じてオムツや尿取りパットを用意し、排泄チェック表をもとに支援がなされている。入居者自身に車椅子を操作していただくことで身体機能の向上に繋げたり、歩行が可能な方には職員の声掛けによって離れた場所へ誘導し歩行訓練を兼ねるなどの対応が窺えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表による間隔の把握に合わせ食物繊維の多く含まれる、食材を使用したり、医療機関と連携して服薬や運動による便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人のADL状況に見合った支援を行い、「楽しく入浴する。」ことを前提としている	ホームでは入浴を楽しめるよう市販の入浴剤を数種類用意している。職員は入浴を拒否する方についてその方に合った対応を取るよう努めている。脱衣室には時季に応じて扇風機や暖房機を用意しており、入浴後は医師から処方された保湿剤を塗布し、スキンケアに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の習慣や症状・状態に合わせた支援を行い、安心感が持て、生活できるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬ミスを起こさないことを最大限の支援として、主治医の指示に従い、服薬後は様子観察等を行い、本人の状態把握に努め、上手くいかない時は主治医に報告し、改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの生活の中で、その人に見合った役割分担を行い、洗濯物たたみや新聞折り等、生活の中に生き甲斐が持てるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ外出の機会を確保するようになりたいが、皆さんの介護度が上がり、行事での外出がほとんどとなったが、家族の協力でも外出する方もいる	ホームでは介護度が上がったことなどによって日常的な外出は難しくなっているが、事業所内の歩行や行事における外出のほか、他の事業所からの招待で相互交流を行うなど、できるだけ外出の機会を設けるよう努めている。理美容については2ヶ月に一度訪問美容による訪問や、経験ある職員が対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布等の所持をされ自分自身で金銭管理をする方は、職員や支援員の支援の下、管理していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・通信等の制限は、常識の範囲内で行っていない		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、入居者の方たちが少しでも季節が分かるようにアクティビティーワークで作成した飾りつけがしてあり、暖かい雰囲気を作っている	ホームの玄関及び共用部分には入居者が作った作品や季節に応じた飾り付けのほか、入居者の写真を掲示している。また、天窓からも明るい日差しが入り、居心地の良い空間となっている。職員は除菌・抗菌の効果があるスプレーを使用し、感染予防対策を講じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内に、ソファを配置して、入居者間の憩いの場として、活用している。状況に応じ、席替えをしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の自由空間として、安全上問題の無いものは、持ち込み自由としている	居室にはトイレとクローゼットが備え付けられている。居室には入居者のこれまでの使い慣れたものが持ち込まれ、家族の写真や入居者が作った作品を飾っている。室内は早出の職員が毎朝清掃を行い、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー化し、自室ベッドはその方型に合わせて配置し、本人が動きやすいようにベッド柵や高さを調整している。		